

令和7年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和 8 年 3 月 19 日

札幌市立 北野台小学校

1 今年度の重点目標

自己肯定感を高めて、キラキラ北野台 ～一人ひとりが大切にされ、安心できる学校～

2 本年度の経営方針

「自己肯定感を高めて、キラキラ北野台」の実現のための働き方改革を推進し、子どもや教職員にとって心理的安全性の高い居場所としての学校を創る。

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	重点項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
			達成状況	改善方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
目指す子ども像	やる気・活気に満ちたキラキラな子どもの育成	子ども一人ひとりの学びを保障し、すべての子どもが学び合う	B	互いに認め合い学び合う授業づくりや授業形態の変化を取り入れ始めたことで、すべての子どもが学習に参加し、つづやきや反応の自然と出てくるようになった。	A	A
学校関係者評価委員会による意見		<ul style="list-style-type: none"> ・来年度に向けて引き続き取り組みされ達成状況を上回ることができるよう期待します。 ・礼教研春の研究集会当日の授業や運動会等の諸行事において子ども達個々の参加意欲が高く、相互の関係性が良好であった。 ・互いに学び合える授業スタイルは、小・中・高・大それぞれの大切な事項となっている。是非取り組まれ、成果を上げてください。 ・おとなしい性格の子もたちに反応やつづやきが見られることは、キラキラな子供の育成に近づいていると感じます。 				
人間尊重の教育	子どもが安心する・認められる学級環境	キラキラ笑顔につながる一人ひとりの「まなび・こころ・からだ」	A	一人ひとりを大切にするためには、日々相手の思いを「聴く」「伝える・説明する」「主体的な姿」「対話的な姿」の育成が必要であると考えており、まずは教職員から実践してきた。	A	A
「学ぶ力」の育成	自ら学びの表現できる、主体的・協働的な学び合う学び	「分からなさ」を大切にしたい、すべての子どもが支え合う関係と環境	B	全員参加型の授業になるよう授業づくりを行ってきた。どの子にも主役となる場ができるような心がけてきたが、一部の児童の発言で授業が展開してしまう場面はまだ見られるため、思いを表出することが当たり前になる工夫に取り組んだ。	A	A
「豊かな心」の育成	学年間交流やたてわりで育てる「あこがれの6年生」	明るく温かな「あいさつ」「スマイルタイム」による交流の広がり	A	最高学年であるという意識を、6年生に常にもたせ、取組や成果に対しては多くの職員で認め、励ましながらやる気と意欲をもたせ続けてきた。	A	A
「健やかな体」の育成	自然に体を動かしたくなるような時間と空間の創造	なわとびやさくら体操の取組と充実による運動能力の向上	A	まず、栄養教諭による食育の授業の充実さにより食べることの喜びを実感できるようになった。また、外部講師を活用した命の学びや運動能力の向上に取り組んだ。	A	A
いじめ対策	未然防止とケアの関係を育成するための支援とかかわり	学校全体での情報の共有と、複数体制での聞き取りの徹底	A	定期的に取り組んでいる「いじめアンケート」を可視化し、全教員が共通の認識をもって、聞き取りなどは必要に応じて複数で行った。その結果も減少傾向がみられた。	A	A
一貫性・連続性のある教育（小中一貫した教育）	幼保小連携事業・小中一貫した学びの接続と共有	近隣の幼稚園や保育園との積極的な交流	B	互いに教職員が、行き来して園や学校での取組を行ってきた。中学校とは今後に向けたCSに向けて情報共有を行ってきた。園に関しては独自性が出ているため、なかなか一貫性は見られない。	A	B
学校関係者評価委員会による意見		<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれ意識された取り組みに今後も期待しています。 ・「まなびづくり」「こころづくり」「からだづくり」の三つの柱をバランスよく調和を意識しながら教育実践に取り組んでいた。 ・一貫性・連続性のある教育は、小学校時の健やかな成長につながると確信しております。その取組に期待いたします。 ・いじめに関しては、減る傾向が見られたがなくなっていないということ。根絶のために何が必要なのか改善策が必要。幼稚園等の一貫性の難しさもあったが、それに対する処置や対策が聞き取れた。 				
学校独自に設定する分野	働き方改革による業務改善		B	会議の持ち方や回数等の工夫。児童に目を向けられる時間の確保を心がけてきた。	A	B
	生活リズムチェックシートの活用		A	家庭や地域、あるいは他機関と連携し、普段の家庭での生活の様子を学校でも共有した。	A	A
学校関係者評価委員会による意見		<ul style="list-style-type: none"> ・働き方改革による業務改善と効率化の両立を期待します。 ・家庭と学校の連携・協力体制は十分であった。 ・小学校の教育の質を維持しながらの働き方改革。困難であることは重々承知しておりますが、よろしくお願いたします。 ・通勤時刻の一貫性は難しい。先生方は子どもたちの為に動いてくれているのでフレックスの活用や柔軟性のある勤務時間管理等で少しでもストレスを感じないようにしてほしい。 				